

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0190202275		
法人名	S&Nふれあいケアサービス株式会社		
事業所名	ふれあいの里 グループホームからまつ		
所在地	札幌市北区拓北4条3丁目10-17		
自己評価作成日	2024.1.12	評価結果市町村受理日	2024.3.14

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_022_kan=true&JigyosyoCd=0170200802-00&ServiceCd=320&Type=search
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	令和6年3月5日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

昨年、篠路愛護苑からS&Nふれあいケアサービス株式会社に社名が変わりました。拓北にきて早今秋で5年を迎えます。コロナになりいろいろなことに制限がかかり、外出、面会などできなくなりました。昨年5類になり、少し緩和されたことで夏祭りを開催することができました。小さな畑があり、食べきれないほどのトマトとキュウリが生ります。皆さんの手と口を借りながら収穫できるまで楽しんでます。とても静かでちょっとした森もありそこで生息しているのか初めて見る昆虫が来たり、冬にはエゾリスが事務所を覗いていたりします。都会ではなかなか体験できないようなことが日常です。日常を通して新しい発見や懐かしい経験ができるよう楽しみながら見つけていきたいと思います。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「ふれあいの里 グループホームからまつ」は、JR拓北駅から徒歩5分程の閑静な住宅地に立地している2階建て2ユニットの事業所である。近隣には公園も多く、自然にも恵まれた環境である。開放感のある居間と食堂を中心に居室が配置された回廊型の造りで、清掃も行き届いた清潔感のある室内になっている。壁には職員や利用者と一緒に制作した立体的な装飾が綺麗に施されており、落ち着きと温もりが感じられる。管理者は常に職員の意見や提案を聞き、全職員で検討し、試しながら経過観察をしてより良いケアや運営につなげている。ブログを開設して事業所や利用者の様子を伝えるとともに、介護計画の更新時に個別の手紙も添えて各利用者の状況を伝えている。食事は季節感や年間行事に合わせた献立で提供し、利用者の好みに合わせて調理法を変えたり、畑で収穫したトマトやキュウリが食卓に上ることもある。利用者の希望で、夏にアイスクリームを味わうこともある。ケアマネジメントの面では、利用者担当職員を中心に評価を行いながらそれぞれの立場で意見交換し、全職員で個々の計画に沿った丁寧なケアを行っている。家族の来訪時には職員が明るい笑顔で対応し、気さくに話することで家族の安心と信頼につながっている。職員間の情報交換もしっかり行われており、安心して過ごせるグループホームである。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1階ユニット)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	各ユニットに理念を掲示し、共有できている。	施設理念に「地域や自然と触れ合い、関りをもってゆっくりのんびり自分らしく」という、地域密着型サービスを意識した文言が含まれている。玄関や各ユニットに掲示し、入職時に説明している。全職員で再確認する機会も増やしたいと考えている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に加入し、運営推進会議には町内会長にも参加してもらい交流している	今年度は、年2回ボランティアによるミニコンサートを開催している。町内会のお祭りに招待されたが、駐車場の確保が難しく参加できなかった。今後は保育園に働きかけ、子供達との交流につなげたいと考えている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議などでは、認知症の症状・行動などもお話の中で出ることがある。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回の会議の場で入居者様の様子や行事など報告している	7月から対面会議を再開して認知症サポーター養成講座を開催しているが、行事や入居者情報、事故報告などが中心になっている。全家族に会議案内を送付して書面で欠欠と意見を聞いているが、寄せられる意見は少ない。	参加できない家族の質問や意見収集につながるように、テーマを記載した会議案内やテーマに沿った資料なども送付するよう期待したい。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	わからないことなどは、すぐに聞いて解決できるようにし、すぐに反映させるように努めている	市役所に認知症基礎研修の手続きについて確認したり、区役所の保護課の担当者や利用者に関して情報交換している。電話で連絡することが多いが、何かあればすぐに相談できる関係を築いている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	防犯と事故防止の為、玄関と各ユニットの出入り口の施錠をおこなっており、市にも確認をし予防の為にもそうしてほしいと返答を頂いている。	マニュアルを整備し、禁止の対象となる具体的な行為を廊下に掲示している。勉強会と委員会を定期的に開催しているが、勉強会資料と開催記録がわかりにくいので、見やすく整備したいと考えている。利用者が外出しようとした時は一緒に出かけ、閉塞感を与えないように配慮している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修を行っているが、ちょっとした言い方、介助の声掛けなどその都度、指導を行い理解をしてもらう		

グループホーム からまつ

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1階ユニット)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	以前に後見人制度を使っていた入居者もあり、管理者は理解しているが、新しい職員も多くなり理解のない職員が多い、今後研修材料にしていきたい		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約際にはしっかり説明をして、疑問や不安についても明白にし、お伝えしている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族からの意見や要望には、反映できるものに関しては早急に行い。そうでないものにはしっかりと現在では行えないことを usage ご理解いただいています	面会時や電話で意見や要望を聞き取り、タブレット端末の「ケース」に記録している。ブログを開設し、介護計画を送るときに個別の手紙を添えている。写真や個別の手紙を送る頻度を増やすことも検討している。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	その都度管理者と職員は意見を交換し、試してみましよう。と経過観察を含め意見交換している	普段から職員と話をし提案や意見を聞き取り、職員間で検討してケアや業務内容の見直しをしている。職員は、連絡ノートにも提案があれば随時記入している。職員は、利用者担当や行事、装飾などの係を分担している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	希望休・有休の取得なども状況見て取ってもらい、各自業務に責任を持ち勤めている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	事業所内の研修はもちろん、キャリアアップの制度も使いながらステップアップしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域や北区、社内の管理者様とパイプを繋げており、情報をもらいサービスの向上に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1階ユニット)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居時にご本人様の昔の様子など伺いながら、ご家族の要望を確認してご本人様の不安がないよう、努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	たいていのご家族様は、入居時の不安又は、連れてくるまでの不安をあげられます。一緒に考えこのようにして見ましょうか？といくつか提案を实践しています。ご家族も安心できるようサポートしています		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	見極めは、必ず行いご家族にも相談を行います		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人が困っているようでしたら、声掛けし傾聴し、安心できるようにしてき信頼関係を築いていけるようにしている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族には、構えずフランクにお話ができるような関係を築いています。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナもあって、来訪されることはなかったですが、おはがきやお手紙、お電話などが来た時には、直接お渡ししたり、直接お話ができるようにしています	知人から手紙が届く利用者もいるが、感染症の流行が続いたため親族以外で訪ねて来る方はほとんどいなくなっている。家族と墓参りや外食に出かける利用者もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	それぞれの顔色などを見ながら、介入した方がよさそうな時には、介入し話題を変えたり、なるべく皆様に楽しく歓談できるよう支援しています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1階ユニット)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	特養や入院退居となった時でも、可能なようでしたら顔を見に行ったり、なにかあれば力になることをご家族様にも伝えています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常の様子を把握し、意向の沿えるよう検討している	会話から思いや意向を把握することができる方が多いが、目の動きや表情から読み取ることもある。センター方式シート(B-3)に詳細に記録しているが、更新期間にばらつきがある。	変化に応じてセンター方式シート(B-3)に随時追記するとともに、全員の書類を定期的に更新するよう期待したい。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人の今までの生活の習慣を大事にし、無理強いせず尊重しながら関係を壊さぬよう支援している		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居にあたりいろいろな心身状態があり、ご家族から聞き取った話から気持ちに寄り添いながら現状は努める		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	計画者と職員とのこまめな意見交換から、プランの作成に取り組んでいる。	3か月ごとに利用者担当職員が評価を行い、変化に応じて全職員で話し合い3か月～6か月で介護計画を作成している。日々の記録はタブレット端末に記載している。家族の意向を具体的に聞き取り、介護計画に更に反映させたいと考えている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	状態が低下したり、逆に向上した場合なども全員で見極めながらプランの見直しをしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	身体状況など見極めご家族にもお話をしながら、支援に結び付けている		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町内会に加入し、回覧板もあり、お祭りなど参加できそうなイベントには、今後参加していきたいと考えています		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月に2回の往診と、週に1回の訪問看護で常に状態をフォローしてもらっており、異変があるときは連絡しすぐに受診している。	全員が協力医療機関の往診を受けている。現在は外部に通院する方はいないが、家族と受診する時は健康状態を口頭で伝えている。受診状況はタブレット端末に個別に記載している。	

グループホーム からまつ

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1階ユニット)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師とは、常に情報共有し主治医の耳にも入れてもらい、指示や受診など行っている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院した際は、医療連携室と情報共有している		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約の段階でも説明はしていますが、ご家族にはその都度お話をしています	利用開始時に「ご利用様が重度化した場合の対応に係る指針」に沿って、常時医療行為や点滴が必要になった場合は対応が難しいことを説明している。体調変化に応じて主治医と家族、事業所で適切な対応を話し合っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	新しい職員も多くなり、手順はあっても訓練はしておらず、今後早急に訓練の実施を行いたい		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練時に、水害時の避難、地震なども織り交ぜて行っている。地域の協力体制については、今後計画を立て築きたい	年2回、昼夜の火災や水害を想定して自主訓練を行っている。今後、消防署に避難訓練の協力に関して相談するとともに、救命講習の受講も計画的に進める予定である。地域との協力体制は課題が残されている。	運営推進会議などで地域との協力体制について話し合い、避難訓練に地域住民の参加が得られるような取り組みを期待したい。各災害に応じたケア別の個別対応について話し合い、定期的に再確認するよう期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々に合わせた声掛けを行い、自尊心を損なわず対応している	新人研修でスピーチロックなど言葉かけに関する研修を行っている。申し送りはタブレットを使用し、個人記録などの書類は事務所に保管されている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	選択肢を出し、どうするか、どうしたいのかをご本人が決定できるよう働きかけている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その方の状態を見ながら、体調がすぐれないようであれば横になって見ない？と声掛けし、必ず声をかけてみる。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	着たい洋服が着れるように支援したり、整容はお手伝いさせてもらっています		

グループホーム からまつ

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1階ユニット)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	テーブル拭きや食器拭きなど、一緒に喜んで行ってくれています	法人作成の献立を使用しており、誕生日は赤飯にするなど柔軟に献立を変更している。事業所の畑でとれたトマトやキュウリをサラダや漬物にして味わうことも利用者の食事の楽しみとなっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養についてはカロリー計算されたレシピがあり、食材も届きます。水分は表があり、水分量の把握をしています		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	歯磨きの声掛けと全介助のかたのウェットシートを使用し、口腔内の洗浄を行っています		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表使用。下剤服用の方が多いため量の増減や座薬の使用など行っている。トイレへ長く入られている際にも声掛けなど行って確認している。	自立している利用者が多く、昼夜問わず自分でトイレに行く方も多い。表情や時間帯を見ながら個々に合った声かけ誘導を行うことで失敗を減らしている。自立に向けて、可能な限り自身の力で排泄が行えるように支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	日中のストレッチ体操と水分量、おやつなどに工夫をしている		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴剤を使い、匂いと色で楽しんでいただく。のんびり入れるようご本人が楽しまれている	毎日午前中の時間帯を中心に、1人当たり週2回の入浴を行っている。湯加減や入浴順など利用者の希望に合わせた支援を行い、希望により見守りに近い形での支援の方もいる。入浴剤の使用も利用者の入浴の楽しみとなっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人一人の体調を考慮して、眠れるよう支援している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	飲み込みが悪くなっていくケースが、多くありその方にとって飲み込みやすいよう、主治医や薬剤師に相談を行い粉碎にもらったりしている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	お天気表の色を塗ってもらったり、洗濯物を畳んでもらったり、みなさんで折り紙を折ったり、新聞紙を切ることを手伝ってもらったりしている。		

グループホーム からまつ

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1階ユニット)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	春には近隣の公園の桜を見に出かけましたが、その後は夏祭りをしたが、どしゃ降りの為室内でのお祭りになりました。今後は数名ずつ散歩へ出かけられるよう支援したい	天候のよい日に近隣の公園の桜を見に出かけている。事業所の畑の野菜の生育状況を見に外出することもあった。感染症の収束状況を見ながら、以前行っていた散歩や外出行事など外気に触れる機会を増やしていきたいと考えている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現金の所持は、入居時のお断りしています		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	不穩時に多く電話を掛けたいという言葉が出ます。その際には、また後でかけてみましょうと伝えていますが、取次ぎは行っています。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	通路には物を置かず、通行ができるようにしたり昔の看板など貼りだし、懐かしい気分になっていただけたらと工夫しています	対面キッチンに面したりリビングは広々とした空間で、手作りの季節飾りや利用者の写真が掲示されており家庭的な温もりが感じられる。通路には昔のキャラクターや芸能人の写真が飾り付けられており、事業所ならではの工夫が見られる。温湿度計も設置されており、安心して過ごすことができる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食卓で過ごされる方も多く、歓談したり、テレビ前のソファで過ごしたり、お部屋で休んでいたり、思うように過ごしていただけるようにしています		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ベットとクローゼット以外はお好きなものを持ち込んでいただいています。ご主人の写真や仏壇をもってきている方もいます。	ベッドとクローゼットが備え付けられている。テレビや以前から使用していたタンスなどの家具、ぬいぐるみや小物の飾りを持ってきている利用者もいる。壁面にお祝いの色紙や家族写真などが飾られており、個々に合わせた居心地のよい居室となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレと部屋の扉は色で分けていますが、更にポスターを張りトイレとわかるようにしています。ディスプレイも季節ごとに可愛い飾りを貼っており、喜ばれています。		

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0190202275		
法人名	S&Nふれあいケアサービス株式会社		
事業所名	ふれあいの里 グループホームからまつ		
所在地	札幌市北区拓北4条3丁目10-17		
自己評価作成日	2024.1.12	評価結果市町村受理日	2024.3.14

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

昨年、篠路愛護苑からS&Nふれあいケアサービス株式会社に社名が変わりました。拓北にきて早今秋で5年を迎えます。コロナになりいろいろなことに制限がかかり、外出、面会などできなくなりました。昨年5類になり、少し緩和されたことで夏祭りを開催することができました。小さな畑があり、食べきれないほどのトマトとキュウリが生ります。皆さんの手と口を借りながら収穫できるまで楽しんでます。とても静かでちょっとした森もありそこで生息しているのか初めて見る昆虫が来たり、冬にはエゾリスが事務所を覗いていたりします。都会ではなかなか体験できないようなことが日常です。日常を通して新しい発見や懐かしい経験ができるよう楽しみながら見つけていきたいと思ます。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=0170200802-00&ServiceCd=320&Type=search
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	令和6年3月5日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--	--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階ユニット)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	各ユニットに理念を掲示し、共有できている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に加入し、運営推進会議には町内会長にも参加してもらい交流している		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議などでは、認知症の症状・行動などもお話の中で出ることがある。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回の会議の場で入居者様の様子や行事など報告している		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	わからないことなどは、すぐに聞いて解決できるようにし、すぐに反映させるように努めている		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	防犯と事故防止の為、玄関と各ユニットの出入り口の施錠をおこなっており、市にも確認をし予防の為にもそうしてほしいと返答を頂いている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修を行っているが、ちょっとした言い方、介助の声掛けなどその都度、指導を行い理解をしてもらう		

グループホーム からまつ

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階ユニット)		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	以前に後見人制度を使っていた入居者もあり、管理者は理解しているが、新しい職員も多くなり理解のない職員が多い、今後研修材料にしていきたい			
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約際にはしっかり説明をして、疑問や不安についても明白にし、お伝えしている。			
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族からの意見や要望には、反映できるものに関しては早急に行い。そうでないものにはしっかりと現在では行えないことを使えご理解していただいています			
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	その都度管理者と職員は意見を交換し、試してみましょう。と経過観察を含め意見交換している			
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	希望休・有休の取得なども状況見て取ってもらい、各自業務に責任を持ち勤めている			
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	事業所内の研修はもちろん、キャリアアップの制度も使いながらステップアップしている。			
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域や北区、社内の管理者様とパイプを繋げており、情報をもらいサービスの向上に努めている。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階ユニット)		外部評価	
			実施状況		実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居時にご本人様の昔の様子など伺いながら、ご家族の要望を確認してご本人様の不安がないよう、努めている			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	たいていのご家族様は、入居時の不安又は、連れてくるまでの不安をあげられます。一緒に考えこのようにして見ましょうか？といくつか提案を实践しています。ご家族も安心できるようサポートしています			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	見極めは、必ず行いご家族にも相談を行います			
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人が困っているようでしたら、声掛けし傾聴し、安心できるようにしてき信頼関係を築いていけるようにしている。			
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族には、構えずフランクにお話ができるような関係を築いています。			
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナもあって、来訪されることはなかったですが、おはがきやお手紙、お電話などが来た時には、直接お渡ししたり、直接お話ができるようにしています			
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	それぞれの顔色などを見ながら、介入した方がよさそうな時には、介入し話題を変えたり、なるべく皆様に楽しく歓談できるよう支援しています。			

グループホーム からまつ

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階ユニット)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	特養や入院退居となった時でも、可能なようでしたら顔を見に行ったり、なにかあれば力になることをご家族様にも伝えています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常の様子を把握し、意向の沿えるよう検討している		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人の今までの生活の習慣を大事にし、無理強いせず尊重しながら関係を壊さぬよう支援している		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居にあたりいろいろな心身状態があり、ご家族から聞き取った話から気持ちに寄り添いながら現状は努める		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	計画者と職員とのこまめな意見交換から、プランの作成に取り組んでいる。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	状態が低下したり、逆に向上した場合なども全員で見極めながらプランの見直しをしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	身体状況など見極めご家族にもお話をしながら、支援に結び付けている		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町内会に加入し、回覧板もあり、お祭りなど参加できそうなイベントには、今後参加していきたいと考えています		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月に2回の往診と、週に1回の訪問看護で常に状態をフォローしてもらっており、異変があるときは連絡しすぐに受診している。		

グループホーム からまつ

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階ユニット)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師とは、常に情報共有し主治医の耳にも入れてもらい、指示や受診など行っている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院した際は、医療連携室と情報共有している		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約の段階でも説明はしていますが、ご家族にはその都度お話をしています		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	新しい職員も多くなり、手順はあっても訓練はしておらず、今後早急に訓練の実施を行いたい		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練時に、水害時の避難、地震なども織り交ぜて行っている。地域の協力体制については、今後計画を立て築きたい		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々に合わせた声掛けを行い、自尊心を損なわず対応している		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	選択肢を出し、どうするか、どうしたいのかをご本人が決定できるよう働きかけている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その方の状態を見ながら、体調がすぐれないようであれば横になって見ない？と声掛けし、必ず声をかけてみる。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	着たい洋服が着れるように支援したり、整容はお手伝いさせてもらっています		

グループホーム からまつ

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階ユニット)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	テーブル拭きや食器拭きなど、一緒に喜んで行ってくれています		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養についてはカロリー計算されたレシピがあり、食材も届きます。水分は表があり、水分量の把握をしています		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	歯磨きの声掛けと全介助のかたのウェットシートを使用し、口腔内の洗浄を行っています		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表使用。下剤服用の方が多いため量の増減や座薬の使用など行っている。トイレへ長く入られている際にも声掛けなど行って確認している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	日中のストレッチ体操と水分量、おやつなどに工夫をしている		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴剤を使い、匂いと色で楽しんでいただく。のんびり入れるようご本人が楽しまれている		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人一人の体調を考慮して、眠れるよう支援している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	飲み込みが悪くなってくるケースが、多くありその方にとって飲み込みやすいよう、主治医や薬剤師に相談を行い粉碎にしてもらったりしている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	お天気表の色を塗ってもらったり、洗濯物を畳んでもらったり、みなさんで折り紙を折ったり、新聞紙を切ることを手伝ってもらったりしている。		

グループホーム からまつ

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階ユニット)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	春には近隣の公園の桜を見に出かけましたが、その後は夏祭りをしたが、どしゃ降りの為室内でのお祭りになりました。今後は数名ずつ散歩へ出かけられるよう支援したい		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現金の所持は、入居時のお断りしています		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	不穏時に多く電話を掛けたいという言葉が出ます。その際には、また後でかけてみましょうと伝えていますが、取次ぎは行っています。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	通路には物を置かず、通行ができるようにしたり昔の看板など貼りだし、懐かしい気分になっていただけたらと工夫しています		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食卓で過ごされる方も多く、歓談したり、テレビ前のソファで過ごしたり、お部屋で休んでいたり、思うように過ごしていただけるようにしています		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ベットとクローゼット以外はお好きなものを持ち込んでいただいています。ご主人の写真や仏壇をもっている方もいます。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレと部屋の扉は色で分けていますが、更にポスターを張りトイレとわかるようにしています。ディスプレイも季節ごとに可愛い飾りを貼っており、喜ばれています。		

目標達成計画

事業所名 ふれあいの里 グループホームからまつ

作成日：令和 6年 3月 12日

市町村受理日：令和 6年 3月 14日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	4	運営推進会議での参加できない家族の質問や意見収集につながるようテーマを記載した案内や資料も送付する	当月末に会議があるため、外部評価をテーマに行う。次回の運営推進会議でもテーマを設ける	毎回のテーマと資料を準備し、皆様がわかりやすく知りたい情報を提供できるようにしたい。	即日
2	23	センター方式(B-3)の追記を行う	更新されていない年があったので、改めてしっかりと行っていくこととし、随時更新していく。	即日から、すでに順に取り掛かり更新していています。	即日
3	35	避難訓練は行なっているが、地域住民の参加や地域の協力が得られるような取り組みと各災害時のケアについて。	以前から課題ではある近隣住民の参加を募る。近隣は働いている家庭が多くあるため難しかったが、消防を呼んでの訓練や近隣施設に参加をお願いしたい。	昨年近隣に小規模多機能の施設ができ、協力依頼を試みたいと思います。また町内会での参加のお願いもしていきたいと思います。	6か月
4					
5					

注1)項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入して下さい。

注2)項目数が足りない場合は、行を追加して下さい。